

平成20・21年度 杉並区教育委員会教育課題研究指定校

研究主題 地域で学び 地域で育つ

新泉・和泉地区 小中一貫教育

第Ⅱ
ステージ

「自ら考え、行動し、よりよく創り出す子ども」を目指して

杉並区立 和泉中学校

杉並区立 新泉小学校

杉並区立 和泉小学校



あいさつ

小中一貫教育の実現に向けて

杉並区教育委員会 教育長

井出 隆安

杉並区立和泉中学校、新泉小学校、和泉小学校の3校が平成20・21年度杉並区教育課題研究指定校として、ここ2年間の成果を発表する運びとなりました。これまでの3校の研究推進への取り組みに対して心から敬意を表します。

これからの小・中学校は、校種間の相互理解をさらに深め、連携をより充実していくことにより、義務教育9年間の枠組みの中で児童・生徒の学びの連続性を保障し、成長に合わせた適切な指導をしていくことが求められています。

杉並区教育委員会では、平成21年9月の「杉並区小中一貫教育基本方針」の策定を受け、区内全校で小中一貫教育を実施していく計画です。小中一貫教育の先行実施校である3校は、「教科等学習における連続的なカリキュラムの工夫」や「生き方や進路指導における連続的なキャリア教育カリキュラムの作成」等の実践的な研究を進めるとともに、地域で学び地域で育つ連携教育活動の充実に努めてまいりました。こうした成果を礎に、今後、本区の小中一貫教育の推進力となることを強く願うものです。

小中一貫教育の目指すもの

杉並区立和泉中学校 校長

渡辺 宏

杉並区立新泉小学校 校長

鶴巻 景子

杉並区立和泉小学校 校長

野本 厚子

小中一貫教育の研究に取り組んで5年目になりました。第Iステージでは義務教育9年間の学びの基盤づくりを、第IIステージでは教科学習と生活の連続を研究しました。

小学校6年間と中学校3年間の義務教育をスムーズに繋いで児童・生徒を「自ら考え、行動し、よりよく創り出す子ども」に育てていくための研究の成果は、17年度に小学校に入学した児童の9年後（平成25年度）の姿が明らかになってくれることと思いますが、その途中である第IIステージ2年間の研究を報告させていただきます。

第IIステージでは、教科学習としては「算数・数学」「英語活動・英語科」を、生活の連続としては「キャリア教育・生活指導」に的を絞りました。合わせて、「読む力・調べる力を育てる学習情報センター機能の整備」や、「小・中、小・小の交流活動の活発化」「地域で学び地域で育つ連携教育活動の充実」等も図りました。

小中一貫教育の目指すものは、この地域で育つ子どもたちの生き生きとした学びの保障とたくましく生きる力の育成です。関係各位に感謝しつつ、さらに研究を深めます。



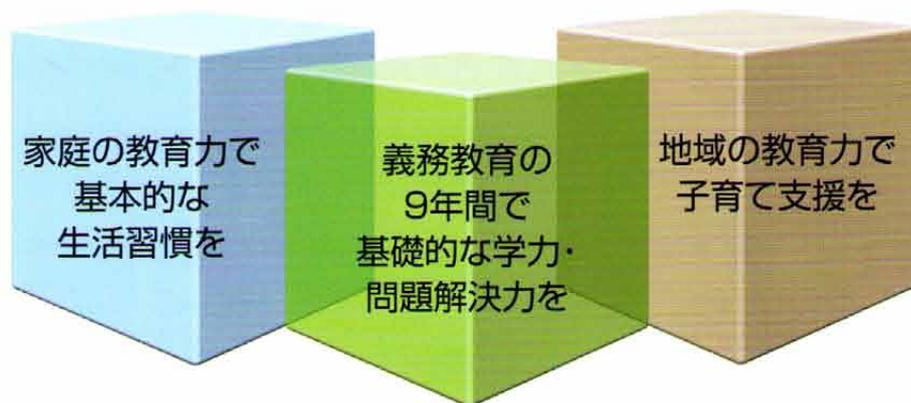
I 研究の概要

第Iステージ(平成17～19年)

研究主題 小中一貫教育カリキュラム開発と指導法の研究

「自ら考え、行動し、よりよく創り出す子ども」を目指して

家庭+学校(小中一貫教育)+地域



学 び の 基 盤 づ く り

基礎の時間

基礎的な学力の定着を図るため国語は音読、辞書引き、百人一首、漢字練習などに、算数・数学はドリル、百マス計算、計算向上プリントなどに取り組みました。少人数体制や、TTでの指導をするとともに放課後学習や家庭学習とリンクさせて進めていきました。

小学校1年生:17単位時間(年)
小学校2年生:18単位時間(年)
小学校3年生～中学校3年生:35単位時間(年)
※国語、算数・数学の授業時数とは別カウント。

学ぶ力・生きる力を はぐくむ時間(通称:学び科)

主体的な学びを進め、発想力や論理力、対応力を養い、課題解決が果たせるように子どもたちにねらいを理解させて、様々なスキルトレーニングを行いました。

小学校1・2年生:10単位時間(年)
小学校3年生～中学校3年生:20単位時間(年)

英語科

国際コミュニケーション力を育成するため、歌、チャンソ、表現活動(スキット、スピーチ、プレイ)を重点にOnly Englishの授業を行いました。

小学校1年生:17単位時間(年)
小学校2年生:18単位時間(年)
小学校3～6年生:35単位時間(年)

中学校1年生:30単位時間(年)
中学校2・3年生:35単位時間(年)
[オーラルコミュニケーションとして]
※レギュラーの英語の授業時数とは別カウント。



I 研究の概要

第IIステージ（平成20～21年）

研究
主題 地域で学び 地域で育つ

新泉・和泉地区 小中一貫教育

「自ら考え、行動し、よりよく創り出す子ども」を目指して

教科学習・ 生活の連続

新泉・和泉地区の学校がともに
子どもたちを連続的・継続的に
育てる教育

小学1年

小学2年

小学3年

小学4年

小学5年

小学6年

中学1年

中学2年

中学3年

杉並区教育ビジョン（H17.1）

- 未来を拓く人を育てる教育を進めます。
- 自分たちで自分のまちをつくる人々の力を育成します。

杉並区小中一貫教育基本方針（H21.9）

- 連続した学びに支えられた学力の着実な向上
- 高い道徳性を備えた豊かな人間性の涵養
- 義務教育終了後の確かな進路保障

目指す児童・生徒像

- 自他の生命を尊重し、互いのよさや違いを「知り、認め合い、支え合い」
人格の形成と個性の伸長を図り、豊かな人間関係を築ける子ども
- 確かな「学び」や豊かな「表現力」「創造力」「コミュニケーション力」を身に付け、
社会の変化に対応して主体的に行動できる子ども
- 自分たちの住む社会や環境を考え、自分たちの手で
よりよく創り上げようとする意欲や実践力を身に付けた子ども



算数・数学科の連続的な学び

- 算数的活動・数学的活動を重視した思考力・表現力を高める
問題解決型の授業
- 小学校教員・中学校教員のチームティーチングによる授業
- 学びの連続性を大切にされたカリキュラムの工夫



英語活動・英語科の連続的な学び

- 小学校第1学年から第6学年までのスパイラルなカリキュラム
で英語に親しむ活動
- 中学校第1学年から第3学年までの英語による自己表現力
を高めながらコミュニケーション力をつける活動
- 英語活動から英語科への連続性を大切にされたカリキュラム
の工夫
- 区嘱託教員（JTE）と中学校英語科教員との連携



キャリア教育・生活指導の連続

- 生き方や進路指導について9年間を見通した指導の再構成
と新泉・和泉地区のキャリア教育カリキュラムの作成
- 人間関係を構築し、滑らかな接続をねらう中学校でのセカンド
スクール
- 学校行事や移動教室、部活動体験、ボランティア活動など
小中・小小の連携及び交流活動の充実
- あいさつなど基本的な生活習慣の連続的な指導の工夫
- 児童・生徒の実態に応じた指導の充実
- 集団行動や規範意識の向上を図る指導の充実



Ⅱ 連携した教育と交流活動

- ・小中一貫教育を推進する上で大切なことは、教員が協力して推進すること、できることから少しずつ行い、定着させ、継続・発展させていくことです。
- ・それぞれの学校のよさを生かしながら、ともに学びあうよさを構築し、常に、地域で育つ子どもたちを協力し育てていく視点を大切にして取り組んでいます。

平成20年度 年間の研究・交流

- 4月・第二ステージ研究計画
- 5月・教務・研究主任会
・研究全体会
- 6月・小中交流週間による
教員相互の授業見学
・各研究部会の研究計画
・小学校の移動教室交流
- 7月・研究全体会
(小中一貫教育の講演)
・各部会での研究
- 8月・各部会での研究
・図書館ボランティアの
配置による図書館整備
- 9月・小学生の中学校での
授業体験・部活動体験
- 10月・算数・数学部会の授業研究
・英語部会の授業研究
・生き方部会のキャリア教育
生活指導研究方針の検討
・高等学校図書館での学習
- 11月・中間報告の検討
(リーフレットの作成)
- 12月・算数・数学部会の授業研究
・英語部会の授業研究
・生き方部会の講演
・キャリア教育の再構築
・生活指導の共通取組
- 1月・中学校での小学生による
学校図書館活用
・学校図書館連絡会の開催
- 2月・高等学校図書館での調べ
学習と発表
- 3月・研究全体会・中間報告完成

児童・生徒の交流

小中交流期間を年間2回設定して、小学生と中学生の交流を積極的に行っています。6月の小中交流週間では授業体験や部活動体験を2校の6年生が行い、9月の小中交流週間では授業体験を4年生が行いました。

授業体験(小・中)



中学校の校舎で、4年生と6年生が興味のある教科を中心に、専門的な指導を受けました。

部活体験(小・中)



2校の6年生90名が7つの部活動に分かれ、中学生から指導を受けました。

ボランティア(小・中)



小学生と中学生が協力して、学校の周辺の公園や道路の落ち葉掃きや清掃活動を行いました。

あいさつ運動(小・小)



東京都のあいさつ運動チャレンジプロジェクト事業に小学校2校が参加しました。

作品展の展示(小・中)



作品展で小中の互いの作品を展示し見合う交流や、運動会での小中一貫競技種目など、行事を活用した交流をしました。

移動教室(小・小)



新泉小・和泉小合同の移動教室が始まって4年目になります。キャンプファイヤーやレクリエーションで交流しました。

教員の交流

教員相互の連携や交流を大切に、合同研究会を年間12回設定しました。また、必要に応じて、各部会ごとに研究会を開いて研究を進めました。指導案検討や連絡は、校務パソコンのメール機能を使って行うなど工夫しました。

授業見学・研究授業(小・中)



小中一貫教育研究を中心に互いの授業を見合うとともに、合同で研究授業を実施し、効果的な指導についての共通理解を図りました。

合同研修(小・中)



日常ではなかなか進めにくい教員の合同研修は、夏季・冬季休業期間を活用して進めてきました。

英語の授業(小・中)



英語については、20年度に区嘱託教員が小・中両方で指導し、連携を図るカリキュラムを実施しました。

算数・数学の授業(小・中)



算数・数学については、小中両方で小学校教員と中学校教員のチームティーチングによる授業を行いました。

体育の授業(小・中)



中学校の体育教員が新泉小の4年生にラジオ体操やバスケットボールの指導を行いました。

美術の授業(小・中)



小学校の図工の教員が中学校の美術の指導をともに行いました。

平成21年度 年間の研究・交流

- 4月 ・全体の年間計画
・新泉小と和泉小のあいさつ
チャレンジプロジェクト交流
- 5月 ・算数・数学部会の授業研究
・新泉小と和泉中の運動会交流
・各部会の研究計画
- 6月 ・算数・数学部会の授業研究
・小学6年生の中学校での
授業体験・部活動体験
・小学校(6年)の移動教室交流
- 7月 ・小学校(5年)の移動教室交流
・検証授業の検討
- 8月 ・小中一貫の生活指導の研修
・各部会での研究
- 9月 ・算数・数学部会の公開授業
・小学4年生の中学校での
授業体験
- 10月 ・英語部会の公開授業
・新泉小での中学校教員による
体育授業
- 11月 ・生き方部会(キャリア教育)の
公開授業
・和泉小と和泉中のボランティア交流
- 12月 ・研究リーフレット検討
・各部会の研究まとめ
- 1月 ・指導案検討
・新年度教育課程の連携
- 2月 ・研究発表リハーサル
・研究発表会
- 3月 ・研究のまとめ

Ⅲ 特色ある教育活動

学びの基盤を支える地域連携型学校図書館 学習情報センター



学校図書館共通利用カード

新泉小学校
和泉小学校
和泉中学校



図書カード

学びの基盤となる読書や調べ学習を、子どもたちのニーズに応じて豊かに展開できるように、3校共通の図書館を共通に利用できるカードを作成しています。

私立高校との連携

私立高等学校の中でも有数の施設の充実が図られている地域の2つの高等学校(専修大学附属高等学校 日本大学鶴ヶ丘高等学校)の学校図書館も活用し、新泉・和泉地区の「地域連携型学校図書館学習情報センター」体制を構築し活用しています。



日本大学鶴ヶ丘高等学校の図書館で和泉小5年生が調べ学習をし、ホールで発表会をしました。



専修大学附属高等学校のコンピュータが常備された図書館で新泉小3年生が説明を受けました。

読む力・
を育

学習情報



3校図書館連絡会

3校図書館連絡会

3校共通の学校司書や図書ボランティアを配置し、3校での学校図書館担当教諭の連絡会開催によって活動や図書館整備の共通理解を図っています。

図書館教育

新泉小学校では9月を、和泉小学校では10月を読書月間とし全教員による読み聞かせなどを実施しています。また、全児童に学校司書が調べ学習オリエンテーションを行いました。

地域で学び

新泉・和泉地区には町会や青少年育成委員会、学校支援本部等3校の児童・生徒が積極的に



学校支援本部
漢字検定
(和泉中)

月と星を見る会(新泉小)



日本大学鶴ヶ丘高等学校による
放課後学習サポート(和泉小)



学校支援本部
英語検定
(和泉中)

和泉中学校 図書館

和泉中学校の図書室は、絵本から一般書までバラエティーに富んだ本が、ボランティアの方によって整然と並べられています。



図書室

ホームページでは「心の本棚」や「図書室ぶち情報」を掲載しています。「心の本棚」には、毎回いろいろな方に、これまで読んだ本の中で今も心に深く残っている一冊を紹介してもらっています。



新泉小学校 図書館

新泉小学校では、1階の「図書室」は読書センターとして、読み聞かせや読書を中心に、3階の「学習資料室」は学習情報センターとして、調べ学習を中心に利用できるようになっています。



1階 図書室



3階 学習資料室

和泉小学校 図書館

和泉小学校の図書室は、読み物の置いてある「図書室」と調べ学習の資料が置いてある「学習資料室」に分かれています。



図書室



学習資料室



調べ学習オリエンテーション

調べる力
センター

児童館、地域センター、の主催の様々な地域行事があり、参加し、交流しています。

地域で育つ

専修大学附属高等学校の留学生との交流会(新泉小)



ぼんぼん踊り(新泉小)



さざんかフェスタ(和泉中)

和泉グリーンコンサート(和泉小)





算数・数学部会

研究主題 問題解決力をはぐくむ算数・数学指導の工夫

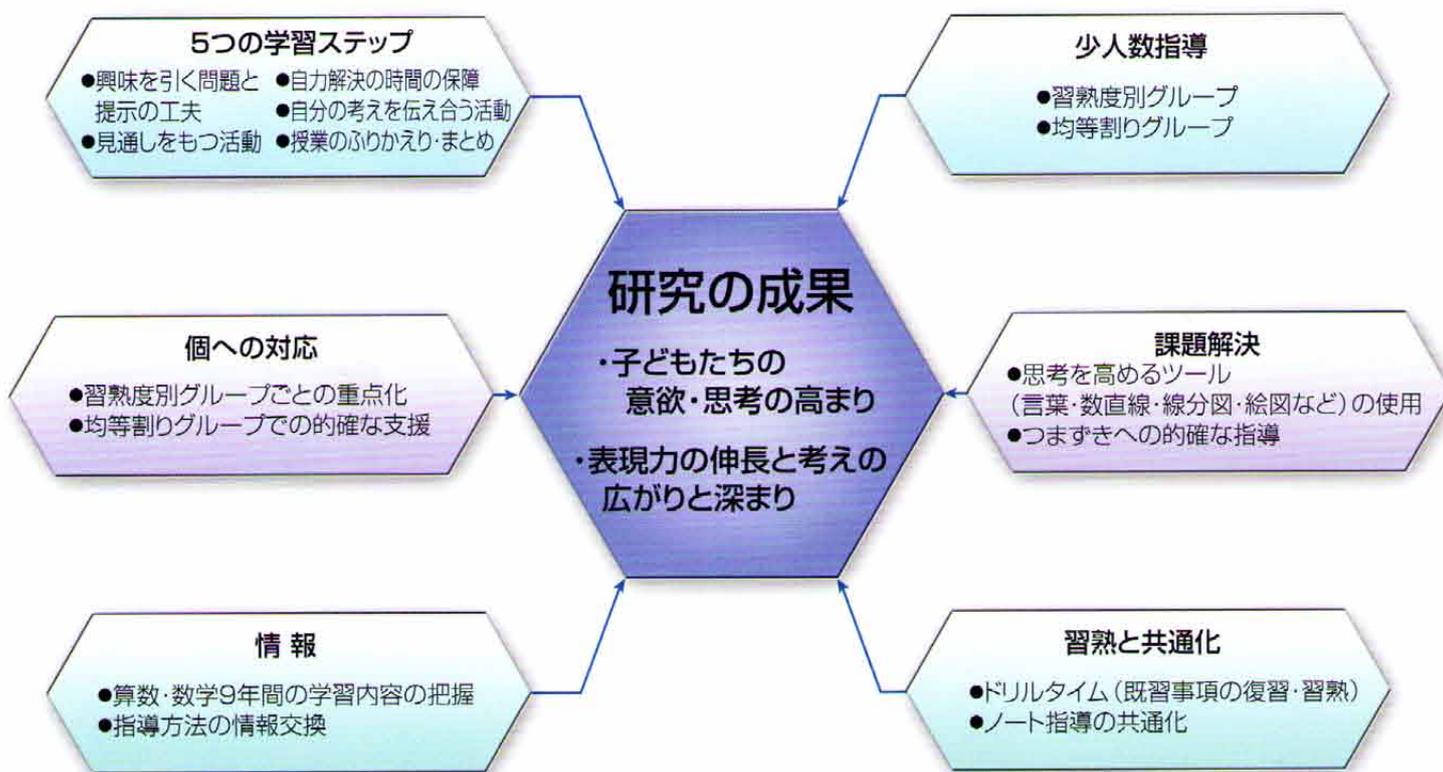
研究を進めるにあたって

20年度の研究経過

3校の学力調査結果の特徴を分析した結果、自力解決を図る力としての「思考力」を育てる必要性が明らかになりました。また、小学校で積極的に操作活動をさせることがその後の思考力を支え、自力で問題解決を図る力になるとの仮説を得ました。そこで、思考力を高めていくためには問題解決の場面で多様な考え方ができるよう、線分図や絵図、数直線などを使って思考させ、それを伝え合い、学び合える授業を工夫しました。また、小学校では操作的な活動を重視した指導を学年に応じて行いました。

21年度の研究経過

20年度の研究を継続し、子どもたちの思考力を高めるために様々な考え方のツール(言葉や数直線、線分図、絵図など)をもたせ、それを使って自力解決させて学び合わせる授業を工夫してきました。しかし、基礎的な学力の定着に時間がかかる児童にとっては多様な考え方ではかえって混乱することがわかり、むしろひとつの考え方でじっくり取り組ませたほうがよく理解されるという結論に達しました。そこで、習熟度別でも均等割りでもコースの中でさらに個々の子どもの思考ツールに配慮しながら自力解決させるよう手立てを工夫してきました。その学年で身に付けるべき基礎はその学年で身に付けさせ、また、発展的な思考に進める子どもにはそのチャレンジができる授業を、小・中学校が共通の目標とし研究を進めました。





研究授業 1

小学校 第4学年

単元名 **面積**

ねらい

- 複合図形で長方形や正方形が組み合わさっていることを見つけ、いろいろな考え方で工夫して面積を求めることができる。

工夫(手立て)

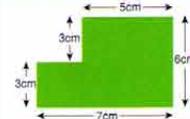
- 多様な考え方ができるようなワークシートを作成し、自力解決の時間を保障する。
- 学び合う場面では、友達の考えを比較しやすいよう、板書を工夫する。

学習のながれ

step 1
課題把握

【問題】

次の図形の面積をいろいろな方法で求めましょう。



step 2
見通す

この図形はどのくらいの広さだと思いますか。どうしたら、求められると思いますか。



step 3
自力解決

今まで学習したことを使っていろいろな求め方を考えて書いてみましょう。



step 4
学び合う

友達にわかるように説明してみましょう。

あなたにとってのはやく、かんたん、せいかく【は・か・せ】はどれでしょう。



step 5
まとめ

今日の学習でわかったこと、気が付いたこと、思ったことを書きましょう。

- ・私は、線を引いて形を分ける考え方しか思いつきませんでした。でも、友達の説明を聞いて、形を変えて求める方法を知りました。これからは、この考え方も使って面積を求めたいです。
- ・この面積の授業をして、算数をもっと好きになりました。明日の授業が楽しみです。

成果

- 自力解決の時間を十分とったことで自分の考えを深めることができた。
- 学び合う場面では思考の過程を図を用いて説明し、互いの考えを深めることができた。

課題

- 面積の求め方はいろいろ考えることができたが、計算力が定着していないために面積を求めることが難しい児童もいた。全員に計算力を定着させることが課題である。

研究授業 2

小学校 第5学年

単元名 小数のわり算

めあて

●整数÷整数、小数÷整数の問題を様々なツール(言葉・線分図・数直線等)を使って解き、自分の考えを説明することができる。

工夫(手立て)

●児童の実態に合わせた興味ある課題を用意し、提示の仕方を工夫する。
●思考力を高めるために様々なツール(言葉・線分図・数直線等)を使って問題を解くよう働きかける。

学習のながれ

step 1
課題把握

【問題】基礎マラソンコース

2mのリボンを同じ長さに切って、4人で分けると1人分は何mになりますか？

【問題】標準ハードルコース

7.2ℓの肥料水を3クラスで同じ量に分けると1クラス分の肥料水は何ℓになりますか？

【問題】発展アスレチックコース

5.2ℓの冷水を24人で同じ量に分けて飲むと、1人分は何ℓになりますか？

step 2
見通す

・1人分はどのくらいになるでしょうか？
・1あたりの分量を求めるには、どうしたらよいでしょうか。



step 3
自力解決

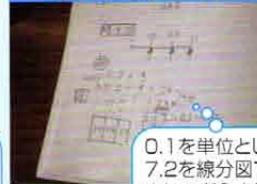
今まで学習したことを使っていろいろな求め方を考えて書いてみましょう。

基礎マラソンコース



2mを0.1を単位として考えるといくつぶんかな？

標準ハードルコース



0.1を単位として7.2を線分図で表して考えよう

発展アスレチックコース



0.1の目盛りの数直線で考えると？

step 4
学び合う

友達にわかるように説明してみましょう。



2mを200cmとして200÷4、または、0.1を単位とすれば20÷4…



7.2は、0.1を単位とすると72、それを3等分すればよいから72÷3…



数直線で考えると1あたりの量がみえてきます。割り切れない時は、概数を使えばよいと思います。

step 5
まとめ

今日の学習でわかったこと、気が付いたこと、思ったことを書きましょう。

・〇〇さんの単位交換をして解く方法はわかりやすいです。
・線分図であらわすと、1あたりの量が目に見えてわかりやすいと思いました。
・数直線を使うと、1あたりの量を求めることがよくわかり、演算決定がしやすいです。

成果

- 3コースを設定し子どもの実態に合わせた問題を提示したため、子どもの意欲が高まった。
- 学び合いでは、様々なツールを使い思考の幅が広がった。
- 自分の考えをもち伝え合うことで、子どもたちが学ぶ喜びを味わった。

課題

- 基礎コースの子どもには多様な考えを出させるより「1つの正しい考え」を定着させたほうがよい。
- 標準コースでは、多様な考えが出るようにツールの数や幅を広げ、発展コースでは、学んだことの活用をさらに進めることが課題である。



研究授業 3

中学校 第1学年

単元名 方程式

ねらい

●てんびんのつりあいから等式の性質（両辺に同じ操作をしてもつりあいは変わらない）を理解する。

工夫（手立て）

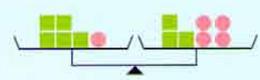
●図で考えたり、式を作って考えたり、生徒の思考過程の中で、等式というつりあいのイメージをつくり、等式の性質の理解につなげる。

学習のながれ

step 1
課題把握

【問題】

てんびんの左の皿にガムが5個、アメが1個、右の皿にガムが3個、アメが4個のつりあいで、つりあいがとれています。ガム1個の重さは何gでしょうか。



step 2
見通す

ガム1個の重さはどうやったら求められるでしょうか。（アメ1個を2gとします。）

step 3
自力解決

基礎

考えのきっかけを与え、理解が不十分な生徒にT2が支援を行い、重さを求める。

標準

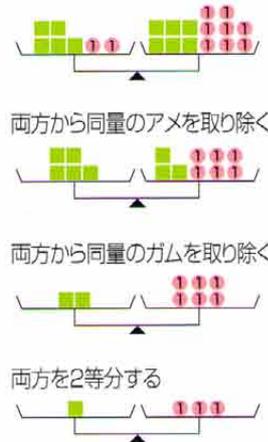
図を用いて、求めるべきものの重さを考える。

発展

図で考えたことを、式にして、どのように解いたか、その計算過程も含めて、説明する。

step 4
学び合う

T2と一緒に操作をすることで、てんびんは『同じ操作をすればつりあいは変わらない』ことをつかむ。みんなの発表から、ガムの重さを求めるにはどうすればよいのか、解決策を見付ける。



① $5x+2 = 3x+8$
両方から同量のアメを取り除く

② $5x = 3x+6$
両方から同量のガムを取り除く

③ $2x = 6$
両方を2等分する

$x = 3$

数式化したうえで、聞き手にわかりやすく発表するために、知識を整理する。

step 5
まとめ

今日の学習の感想を書きましょう。

- ・今回の発表で、意見を出すときに自分の意見が相手にうまく伝わらないことがありました。内容をもっと理解しないと上手に説明できないことがわかりました。
- ・両方のてんびんからものを取っていき、物の重さをわかりやすくしていくことで、重さがわかることが面白かったです。
- ・重さを調べる作業が楽しかったです。

成果

- 重さを調べる過程で、てんびんのつりあいを利用して、等式の性質を理解することができた。

課題

- 等式の性質を利用して方程式を導いたあとの、式を解くための基本的な計算力を向上させることが課題である。



英語部会

研究主題 **自己表現力・国際コミュニケーション力をはぐくむ指導の工夫**
～9年間の英語の学習を通して～

研究を進めるにあたって

これからの国際社会を担う子どもたちは、外国語（英語）を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、国際コミュニケーション力を高めていくことが求められています。英語は、自己表現力を身に付け、それにより国際的に活躍していくためのコミュニケーション力をはぐくむ基盤ともなっています。

英語活動を行う中で、特に子どもたちに自己表現力・コミュニケーション力を身に付けさせるために、小学校では、繰り返しを

大切にしながら学ぶスパイラルな指導を中心に行っています。また、小学校6年間の英語活動で学んだ96の構文と多くのインプットを生かして、自己表現する力・コミュニケーションする力を育てていくことが大切です。さらに、中学校での英語科の学習では、小学校での学びを生かし、

英語による自己表現を工夫しながら進んで行える力を育てます。そうすることが、これからの時代に求められる国際コミュニケーション力になると考えています。



アウトプット

- インプットしたことをもとにスキットや自己表現など自分の表現にして相手に伝えます。



自己表現



コミュニケーション

Gesture

Loud Voice



Phonics (音声から文字へ)



絵本

スパイラルな授業カリキュラム
繰り返しを大切にしながら次第に高度な内容に進みます。

Only English

日本語を使わず、英語だけで授業を進めます。

Eye Contact



ペア・グループでの対話表現

Smile

インプット

- 意味を考えながら繰り返しよく聞き、よく見ます。
- 聞こえたことが、完全にわからなくても真似して何度も言ってみます。
- それぞれの段階に応じてインプットは続きます。



歌・リズム



英会話たいそう
(96の構文)



小学校から中学校へ (小5・小6→中1)

5th Grade

主体的な学習の形成



英語日直が、授業の始まりや歌やあいさつをするとともに、天気や曜日など簡単な質問やゲームをします。

文字に親しむ活動



アルファベットの音から文字を探していきます。英語の発音を意識して文字と結び付けていきます。

コミュニケーション力の育成



既習の表現を取り入れ、場面を設定しスキットを作り、楽しんで発表します。

文章を読む活動



耳から覚えた英語と絵本の文章を合わせて指と目でたどり、音声と文章を結び付けていきます。

6th Grade

コミュニケーション力の育成



友達の発表をよく聞き、コメントします。

自己表現力の育成



これまでに学習した様々な表現形式を通して、自分のことを表現します。

文字に親しむ活動



Phonicsのルールを学んで、自分の力で文字を読みます。

文を書き写す活動



これまで学習し慣れ親しんだ歌やチャンツを書き写します。

7th Grade

Only Englishの授業を継続



先生のスピーチを聞いてメモリーチェックを行います。

主体的な学習の形成



生徒同士で、授業の始まりのあいさつや簡単なウォームアップゲームをします。

コミュニケーション力の育成



教科書の基本文を使って、既習英語表現を加えた会話を協力して考えます。

発表活動



作ったスキットは、生徒たち同士で練習して発表します。

IV 研究内容

学年の発達段階に応じた授業を目指して

工夫(手立て)

小学校での英語が始まって5年目になりました。言語材料を繰り返し耳にし、英語のリズムを体にしみこませるインプットをベースにしながら、今年度は学年の発達に応じてアウトプットしていく授業実践を積み重ねています。

1st Grade



1年生は、英語のリズムを全身で楽しみながら、表現しました。Martin先生がいらしたときには、全員1対1で先生の目を見てあいさつをしました。

2nd Grade



2年生は、歌や英会話たいそうを、「大きな声」「大きなジェスチャー」に気を付けながら、元気よく歌ったり踊ったりしました。

3rd Grade



3年生は、英会話たいそうを、AとBに分かれてかけあいで踊ることができました。また、絵本読みでは「Bears in the Night」を、ジェスチャー付きで表現するなど、物語の世界を楽しみました。

Nakayoshi



仲よし学級は、元気にあいさつと歌から始めます。運動会の応援歌を、ポンポンをもって楽しくおどりました。

4th Grade



4年生は、グループで英会話たいそうの表現を使ったスキット活動をしました。また、アルファベットに親しむ活動も始めました。

5th Grade



5年生は、Pam and Tedを使って新たな会話表現を増やし、ペアでスキット活動に取り組みました。また、慣れ親しんだ絵本のマジックフィンガー読みにも挑戦しました。

6th Grade



6年生は、This is meを使って自己紹介活動(Show & Tell)が始まりました。スペルゲームや慣れ親しんだ歌やチャンツの書き写しにも挑戦しました。

7th Grade

Warm-upとして、簡単な会話やゲームを取り入れました。自己紹介のスピーチや教科書の表現を使いながらスキットを作り、コミュニケーション活動を行いました。新しい英語を聞くチャンスを常につくり、体験型の授業展開に取り組みました。

8th Grade

発表活動として、教科書の英語劇朗読発表や、「私の夏休み」のShow&Tellを行い、鎌倉校外学習については、より内容のある発表を目指して各班で協力しました。英語のリズム練習としての音読の取り組みでは、宮沢賢治の世界を楽しみました。

9th Grade

自己表現力はこれまでの学習でかなり身に付いています。修学旅行の思い出を英語で表現したり、俳句や4コマ漫画にも挑戦しました。Justin先生との会話活動も行い、昨年よりも会話を続けられるようになりました。スピーチでは、Eye contactやGestureなども意識しながら発表しました。

行 event 事

Cheer 運動会



Halloween 集会

"Halloween Halloween, ...♪"



Christmas 集会



Show & Tell 文化発表会



成果

- 5年間の研究を通し、小学校1年から取り組んだ成果として、英語でのコミュニケーション力や自己表現力が付いてきた。

課題

- 小学校6年間英語に慣れ親しんできた児童のコミュニケーション力・表現力を生かし、中学校でより高める授業展開の工夫が必要である。



生き方部会

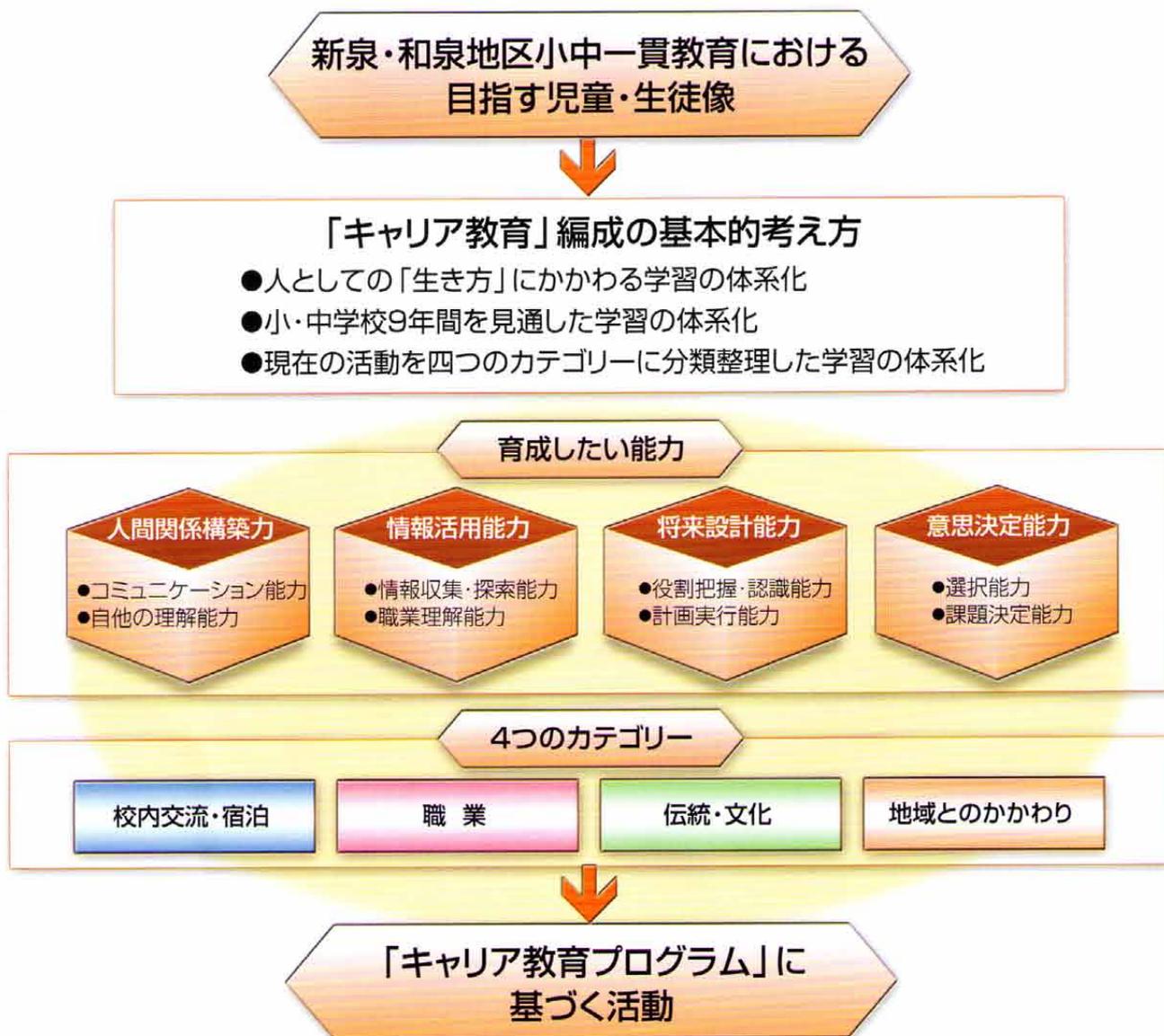
研究主題 **豊かな人間性をはぐくむキャリア教育・生活指導**

研究を進めるにあたって

義務教育終了後の進路保障を確かなものにするには、小・中学校共通の課題といえます。小・中学校においては、自らの進路を主体的に選択する能力を、発達段階に応じて計画的・継続的に育成することが不可欠です。本部会では、子ども一人一人が自らの「生き方」を考え、よりよい生活を歩んでいくことを目的として、「キャリア教育」と「生活指導」に視点を当て、小中一貫教育の在り方を研究しまとめました。

キャリア教育

本区では、「豊かな人間性の育成を図る」観点からキャリア教育の充実に取り組んでいます。その実績をもとに、9年間の義務教育の中で体系化し、連続性のあるキャリア教育のプログラムを考えました。



成果

- 小・中学校それぞれのキャリア教育活動が義務教育9年間のなかでどのような意味をもち、その先、どのようにつながっていくのかを把握することができ、一つ一つの活動の持つ意味を明確につかみながら、指導をすることができた。

課題

- 各活動の質的充実による他活動との関連性の強化
- 小・中学生の連携による活動の内容の充実及び効果的交流の在り方の追究



新泉・和泉地区 キャリア教育プログラム一覧

	校内交流・宿泊	職業	伝統・文化	地域との関わり
小学校1年		<ul style="list-style-type: none"> ● [働くを知る] <ul style="list-style-type: none"> ・お店屋さんごっこをしよう ・家事のお手伝いをしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ● [伝統のよさを体験する] <ul style="list-style-type: none"> ・昔遊びをしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼稚園・保育園 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園児・保育園児と遊ぼう
小学校2年	<ul style="list-style-type: none"> ● 交流[1年生] <ul style="list-style-type: none"> ・入学式歓迎催し ・学校探検 	<ul style="list-style-type: none"> ● [模擬体験をする] <ul style="list-style-type: none"> ・郵便局を開こう 		<ul style="list-style-type: none"> ● 高等学校 <ul style="list-style-type: none"> ・高校生や留学生と交流しよう ・高校の施設をお借りしよう
小学校3年	<ul style="list-style-type: none"> ● 交流[3年生] <ul style="list-style-type: none"> ・弟子入り体験を教えてあげよう ● 交流[仲よし学級] <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく遊ぼう 	<ul style="list-style-type: none"> ● [体験する] <ul style="list-style-type: none"> ・商店街への弟子入り 		<ul style="list-style-type: none"> ● 済美養護学校 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく遊ぼう ● 和泉ふれあいの家 <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に活動しよう
小学校4年	<ul style="list-style-type: none"> ● 交流[中学生] <ul style="list-style-type: none"> ・中学校で授業、生活体験をしよう 		<ul style="list-style-type: none"> ● [伝統の知恵を知る] <ul style="list-style-type: none"> ・昔の物と暮らしを調べよう 	<ul style="list-style-type: none"> ● オイスカ <ul style="list-style-type: none"> ・オイスカのことを知ろう
小学校5年	<ul style="list-style-type: none"> ● 宿泊「自他理解力育成」 <ul style="list-style-type: none"> ・富士学園移動教室 		<ul style="list-style-type: none"> ● [伝統の驚異を知る] <ul style="list-style-type: none"> ・千年の釘にいどむ ● [伝統の深さを知る] <ul style="list-style-type: none"> ・狂言の鑑賞 	
小学校6年	<ul style="list-style-type: none"> ● 交流[中学生] <ul style="list-style-type: none"> ・体験学習発表、部活体験 ● 宿泊「計画実行力育成」 <ul style="list-style-type: none"> ・弓が浜移動教室(両校の交流) 	<ul style="list-style-type: none"> ● [働く尊さを知る] <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人の生き方に学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ● [文化を継承する] <ul style="list-style-type: none"> ・短歌俳句を学ぼう 	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼稚園・保育園 <ul style="list-style-type: none"> ・訪問体験 ● 児童館・保健センター <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんだっこプロジェクト
中学校1年	<ul style="list-style-type: none"> ● 宿泊「コミュニケーション力育成」 <ul style="list-style-type: none"> ・セカンドスクール ● 交流[6年生] <ul style="list-style-type: none"> ・中学校生活紹介 等 	<ul style="list-style-type: none"> ● [働く苦勞を知る] <ul style="list-style-type: none"> ・職業調べ 	<ul style="list-style-type: none"> ● [文化を継承する] <ul style="list-style-type: none"> ・百人一首大会・こづゆ作り、竹細工、蒔絵体験(セカンドスクール) ● [伝統の深さを味わう] <ul style="list-style-type: none"> ・江戸伝統工芸体験 	<ul style="list-style-type: none"> ● [他校中学生] <ul style="list-style-type: none"> ・生徒サミット ● [地域の方々] <ul style="list-style-type: none"> ・ミナマルタン参加さんかマスタモチモチ大会参加地域清掃 ● [永福ふれあいの家] <ul style="list-style-type: none"> ・相互交流活動
中学校2年	<ul style="list-style-type: none"> ● 宿泊「課題解決力育成」 <ul style="list-style-type: none"> ・移動教室(スキー教室) 	<ul style="list-style-type: none"> ● [体験し、自己の生き方を考える] <ul style="list-style-type: none"> ・職業講話・職業体験 ・進路適正検査 ・上級学校訪問 ・高校教師の話を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ● [伝統・文化を見聞する] <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉校外学習 	
中学校3年	<ul style="list-style-type: none"> ● 宿泊「自立自律心育成」 <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行 	<ul style="list-style-type: none"> ● [自己の将来を設計する] <ul style="list-style-type: none"> ・上級学校調べ ・上級学校訪問 	<ul style="list-style-type: none"> ● [伝統・文化を見聞する] <ul style="list-style-type: none"> ・京都・奈良修学旅行 	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼稚園・保育園 <ul style="list-style-type: none"> ・保育体験

生活指導

小・中学校9年間を通して発達段階に即した生活指導を適時・適切に行い、小・中学校の円滑な接続を行うことは、児童・生徒に精神的な安定をもたらし、着実な自己形成を促すことにつながります。そのためには、教員同士が互いの児童・生徒のよさや課題を十分に理解して、同じ方向での指導をすることが大切となってきます。

本部会では、小・中学校の教員が抱えている問題を率直に意見交換しながら、よりよい児童・生徒の育成について話を進め、実践研究をしてきました。

3校の目指す児童・生徒像

自己肯定感、規範意識を高め、人間性豊かな新泉・和泉の子

3校の重点目標

- あいさつをしよう
- 話を聞こう
- 正しい言葉づかいをしよう



代表委員による校内でのあいさつ運動をとおしてあいさつの輪を広げる。



全校朝会、集会、授業時は姿勢を整え、相手の目を見て話を聞く。



朝の会、日直は正しい言葉づかいで話し方名人、みんなは聞き方名人で、気持ち良く一日が始まる。

実態と取り組み

20年度「生活指導の共通理解」

各校の生活指導上の課題を出し合い、共通理解し共有化を図りました。その中でとりわけ、基本的な生活習慣や規範意識、自分への信頼感や自信などの自己肯定感の育成とともに、ルールを遵守することの意味を理解し、主体的に判断し、適切に行動できる児童・生徒を育てることも課題として挙げられました。さらに、教育上特別な支援を必要とする児童・生徒への指導のあり方についてもより一層の充実を図る必要のあることが共通理解されました。

21年度「指導の共有化」

現状の共通理解と生活指導上の具体的な取り組みや情報交換などを十分に行うとともに、専門家による研修を進め、日常の指導に生かしてきました。具体例として、児童によるあいさつ運動、朝礼や集会でのあいさつ、礼の仕方の指導、教師による正門前でのあいさつ、声かけ指導、チャイムが鳴ったら出欠確認、学習用具の準備の徹底などを行いました。また、小学校から中学校へスムーズな引き継ぎができるよう個別カードの作成をし、事前に子どもの状況がわかるようにしています。





個に応じた指導の充実を目指して

- 児童・生徒については、小・中学校が連携を図りながら、よりよい学校生活が進められるよう教員が情報交換を十分に行うとともに、児童・生徒理解のための研修に取り組んでいます。
- 児童・生徒が、よりよい人間関係を構築するよう、小学校2校が合同でグループエンカウンター研修を行いました。
- 教員一人一人が専門的な力を高めるため、巡回指導での研修を3校が相互に参加できるように進めています。



成果

- 3校の教員が連携しながら生活指導上の課題を共有化し、各校の児童・生徒の実態や取り組み等の情報交換を密に行ったことは、それぞれの生活指導にとっても効果的だった。
- 友だち同士や教職員はもちろん、来校者にも進んであいさつができるようになってきた。
- チャーム着席や話の聞き方、言葉づかい等の指導の徹底を図ることで意識化が進み、実行できるようになってきた。

課題

- 生活指導は、地域に根ざしたものでなければ、なかなか定着が図れない。規範意識を高め、心豊かな子どもに育てるためには、地域と連携しながら大人がモデルとなる必要がある。2年間の研究成果を、今後はさらに地域に広め、子どもたちが地域で見守られ、育てられているという実感がもてるような取り組みをしていきたい。

■ 研究の成果

■ 教科学習・学びの連続

算数・数学を中心とした問題解決型の学習や英語を中心としたコミュニケーション力の育成、キャリア教育・生活指導を中心とした豊かな人間性をはぐくむ教育活動を連続した学びにすることによって、主体的に学び、行動し、創り出す子どもが育ってきました。

■ 小・中学校間の相互理解と教員の力量形成

小・中学校の合同授業研究や合同研修会によって、中学校教員の専門性や、小学校教員のきめ細やかな指導の実態など、両者の特性の相互理解が深まり、教員の力量形成につながりました。

■ 新泉・和泉の地域にかかわる活動の充実

3校の図書室、地域の高等学校の図書館をつなぐ学習情報センター構想や各校の行事や授業にかかわる学校支援本部、地域子育てネットワークとの連携で、地域と一体となった教育活動が展開されてきました。



■ 和泉中学校

質の高い授業と個に応じた指導により、学力向上を図って確かな進路保障をすることと、部活動の活性化によって、魅力のある中学校へ

■ 新泉小学校・和泉小学校

共通の教育課程を増やし、質の高い授業と理数・英語教育、読書指導の充実によって、中学校への確かな力と夢をはぐくむ小学校へ

■ 今後の課題

■ 義務教育9年間の教育課程の新たな開発・実施・評価によって、小・中学校の円滑な接続を図ります。

■ 小1～中3の合同活動の実施など、これまで以上に児童と生徒、小学校の教員と中学校の教員が相互に連携・交流し、指導の充実を図っていきます。

■ 新泉・和泉地区のまちのよさを活かし、より地域と一体となった教育活動を展開します。

ご指導いただいた先生

算数・数学部会

東京学芸大学名誉教授
日本教育大学院大学教授
伊藤 説明先生

国立情報学研究所 社会共有知研究センター長
国際基督教大学 Othmer記念自然科学客員教授
新井 紀子先生

元杉並区立馬橋小学校校長
平田 満穂先生

英語部会

松香フォニックス研究所所長
松香 洋子先生

松香フォニックス研究所研修担当
野田 まゆみ先生

杉並区教育委員会指導主事
田原 弘一先生

生き方部会

東京聖栄大学准教授
岡田 弘先生

上智大学講師
篠 翰先生

品川区立小中一貫校 伊藤学園主幹教諭
今野 晋先生

むさしの発達支援センター所長
杉並区立済美教育センター学校経営アドバイザー
森山 徹先生

杉並区立中瀬中学校校長
藤川 章先生

杉並区教育委員会統括指導主事
筒井 鉄也先生

研究に携わった教職員

(*) 研究推進委員長 敬称略

	算数・数学部会	英語部会	生き方部会		その他
			キャリア教育	生活指導	
担当 校長 副校長	和泉小学校 校長 野本 厚子 副校長 佐野 篤	新泉小学校 校長 鶴巻 景子 副校長 田邊 克宣	和泉中学校 校長 渡辺 宏 副校長 酒井 善雄 副校長 中島 好招		
和泉中	山崎 ゆみ子* 石橋 美紀 生川 誠二	小川 小百合	大角 弥生 大川 利明 志津野 ゆか 武藤 精一 瀬戸 広文	高橋 賢 小倉 和彦 齋藤 智加	伊藤 優見子 松園 喜久 島原 千晶 松田 敏夫 野末 みよし 大竹 かづ彥
新泉小	篠田 真由美* 中村 淳子 伊原 さやか 内田 広志	下村 美智子 大野 佐知子 高橋 美恵子 勝田 智之 都築 晶子 村山 律子	安藤 みはる 秋元 京美 施 由伸	我那覇 美智子 有澤 正浩 木下 朗	倉田 久子 対馬 滋樹 川嶋 恵子 岩澤 とし子 大沼 優理子 小山 道生 瀬下 岳 大武 令子 中野 由美 高橋 京子 久保田 美穂 楠 順子
和泉小	鈴木 玲子* 今岡 明子 永井 真治 小野寺 千恵 國光 一平 山本 勇介 細小路 幸剛	高田 友佳子 伊藤 憲吾 貝原 直美 片岡 望 成瀬 彩華 山田 史織 谷井 美和子 中元 晴香	富田 大介 大野 美樹 福田 真央 小川 涼子	久米 真理子 畠山 保彦 明比 美和 坂井 智衣子	吉永 みどり 宮澤 卓也 横田 智香子 笹川 健太郎 青木 純 吉田 美智子 佐藤 菜穂子 長田 昌子

20年度

和泉中：山崎 茂 鈴木 有里子 北山 哲也
新泉小：青木 知典 木村 悟 北原 豊子
和泉小：石渡 貞吉 木村 淳子 吉村 ひろ美

21年度

学校司書：北 明美



杉並区立 和泉中学校

〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-14
 tel.03-3322-7671 fax.03-3322-3574
 url.http://www.suginami-school.ed.jp/izumichu/

杉並区立 新泉小学校

〒168-0063 東京都杉並区和泉1-44-26
 tel.03-3322-4251 fax.03-3322-2761
 url.http://www.suginami-school.ed.jp/shinsenshou/

杉並区立 和泉小学校

〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-21
 tel.03-3322-4254 fax.03-3322-8336
 url.http://izel.sakura.ne.jp/izumi/